

○ 単元「伝えたい！久世のええとこ いつまでも」（遷喬小学校）

1 単元指導計画

1-1 単元名 「伝えたい！久世のええとこ いつまでも」（全24時間）

担当者 清友ひとみ 谷本穰 太田真由美

1-2 単元設定の理由

(1) 児童の実態

子どもたちは、社会科の学習「健康なくらしをささえる」や総合的な学習の時間「川の健康診断」などをおして、地域の施設や自然に関わる学習を行い、自分たちの住む地域を見つめ直すきっかけになったと思われる。

しかし、久世町では、ホームページや観光パンフレットなどで歴史的な建物や人物などが広く広報されているが、子どもたちは、それらについて関心があまりなく、久世町の特徴として意識していないという実態が見られる。このように地域の一員として、できることは何かを見つけ出し、進んで地域の課題に取り組んでいこうとする意識はあまり見られず、そのため行動力も十分とはいえない。たとえ自分の住む町に素晴らしい良さがあってもその良さに気づき、町への誇りと愛情をいただくことは困難であり、「自分が住む町をこんな町にしたい。」という未来の展望も描くことができないと思われる。

(2) 教師の願い

そこで、本単元では、以上のような子どもたちの実態を踏まえ、子どもたちが生まれ育った久世町の『ええとこ』を調べることをきっかけにして、自分たちの住む町を身近な文化や生活という側面から見つめ直す活動を組み込んでいきたい。そして、「地域の課題は何か。」「自分にできることは何か。」ということを自ら考え、積極的に行動に移していく力を育てていきたいと考えた。

内容系列表でいえば、「郷土」の3・4年、『ウ 自分も地域の一員であることに気づき、地域の文化や生活を守るために自分にできることは何かを考えて実行しようとする。』子どもの育成を期待している。

そして、このようなねらいにせまるために、まず、久世町の良いところを調べたり聞き取ったりする活動を通して、今は知っている人が次第に少なくなっている文化や生活に気づき、後世に伝えたいものは何かを考えさせたい。その中から第1段階として『早川踊り』に焦点を絞り、踊りの歴史を調べたり、踊りの保存会の人の願いを聞き取ったりする活動、また、自分たちで趣向を凝らした早川踊りを運動会で発表する活動を設定したい。次に第2段階として、早川踊りの名前にまでなった『早川代官』に焦点を当てたい。早川代官とは、江戸時代、荒廃した久世一帯の民衆を救った人物であり、民衆は早川代官との出会いをきっかけに自分たちの力で自分たちの町を守り発展させる自信をもつことができた。こうした歴史を調べたり、わかったことを「早川代官物語」という劇で表現したりすることで、自分たちの力で、自分たちの住む町を魅力ある町にしていく素晴らしさを学ばせていきたい。そ

して、今までよりも自分の住む町に誇りと愛着をもち、地域の様々な活動に積極的に参加していくことを期待している。

1-3 単元の目標

ふるさとに残る「早川踊り」を調べたり、体験したりすることを通して、ふるさとのよさやそこに生きる人たちの思いに気づき、ふるさとに愛着をもち、地域の一員として自分にできることを考え実践することができるようにする。

1-4 単元の評価規準

○ 関心・意欲・態度

- ① 久世町のよさに関心をもち、進んで調べたり発表したりしようとする。
- ② 早川踊りの練習に意欲的に取り組もうとする。

○ 思考・判断

- ① 「久世町のええとこ」と自分との関わりを考え、地域の一員として自分のできることを見つける。
- ② 早川踊りと保存会の活動および保存会の人たちの思いを調べ、そこに見られる早川踊りの現状と課題について考える。

○ 技能・表現

- ① 早川踊りを学区の人の伝える方法を工夫することができる。

○ 知識・理解

- ① 自分たちの身近な地域の「ええとこ」に気づく。
- ② 早川踊りと保存会の活動を知り、保存会の人たちの思いを理解する。

1-5 学習過程と評価計画（全24時間）

学習活動	教師の支援と指導上の留意点	評価の観点				主な評価の資料とその活用
		関意態	思判	技表	知理	
<p>1 「私が見つけた久世町のええところ」を調べて発表する。</p> <p>①調べる（課外：夏休みの課題）</p> <p>②発表し、感想を書く。（3h）</p>	<p>・一人一人の児童が何について調べてきたのかを把握しておき、より効果的に発表ができるように助言する。</p> <p>・久世町には、昔ながらのよいところがたくさんあることを押さえる一方、なくなりかけているものもあることを知らせ、課題意識をもたせる。</p>	① ①			①	<p>・「久世町のええところ調べ」ワークシートの分析と発表のための資料</p> <p>・「久世町のええところ発表会評価用紙」の分析</p>
<p>2 「久世町のええところ」の中から多くの人に知らせ、残していきたいものを決める。（1h）</p>	<p>・話し合いのポイントを次の3つに絞って進める。</p> <p>①久世町らしいもの</p> <p>②昔から大切に伝えられているもの</p> <p>③今はだんだん知っている人が少なくなっているもの</p>		①			<p>・活動の観察</p>
<p>3 早川踊りについて調べる。</p> <p>① 早川踊りを調べていく手がかりを発表しあい考える。（1h）</p> <p>② 早川踊り保存会の人話を聞いたり、踊りを見せてもらったりする。（2h）</p> <p>③ 早川踊りについて調べる。（4h）</p>	<p>・実際に目の前で踊って見せてもらうことで、意欲づけを図る。</p> <p>・次のような点を中心に、調べるようアドバイスをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・由来 ・踊り方 ・保存会の現在の活動 ・保存会の人たちの思い 	①			②	<p>・発表</p> <p>・「これが早川踊りだ!」ワークシート</p> <p>・「早川踊りのなぞ」ワークシート</p>
<p>4 運動会で早川踊りを踊り、早川踊りについて学区の人に知らせる。</p> <p>① 発表の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習する。（2h；課外10h） ・表現方法の工夫をする。（2h） ・学区の人に伝える方法を考える。（6h） <p>② 運動会で発表する。（1h）</p>	<p>・練習、表現方法、学区の人に伝える方法を考える際、地域の人々に対する自分の思いや工夫を組み込むことを助言する。</p>	②	①	①		<p>・踊り練習カードの分析</p> <p>・活動の観察</p> <p>・「活動計画書I」の分析</p> <p>・活動評価表の分析</p>
<p>5 早川踊りに取り組んできたことを振り返り活動をまとめる。「振り返りカード」にまとめ、それをもとに作文を書く。（2h）</p>	<p>・早川踊りを通して気づいた地域の特徴や、地域の人たちの思いを中心に振り返らせ、地域の一員として久世町のよさに思いをめぐらせることを助言する。</p>	①			②	<p>・「振り返りカード」の分析</p> <p>・作文の分析</p>

1-6 評価資料 (略)

1-7 評価基準

学習活動	評価基準	学習活動における具体的な評価基準	評価資料	評価基準		
				A (3)	B (2)	C (1)
1 「私が見つけた久世町のええところ」を発表する。 ①調べる(課外:夏休みの課題) ②発表し、感想を書く。	関心・意欲 態度 ①	自分が見つけた「久世町のええところ」を進んで調べる事ができる。 「久世町のええところ」を進んで発表しようとしている。	「久世町のええところ調べ」ワークシート ・活動の観察 ・発表のための資料 「久世町のええところ」発表会評価用紙	ワークシートに調べたこととを文章だけでなく、写真や絵なども付け加えわかりやすくまとめている。	ワークシートに調べている。ワークシートをもとにして発表している。	ワークシートに何も書いていない。
2 久世町の「ええところ」の中から多くの人に知らせ、残していきたいものを決める。	関心・意欲 態度 ① 知識・理解 ① 思考・判断 ①	「久世町のええところ」の中から「久世町のええところ」に気づくことができる。 たくさんある「久世町のええところ」の中から何を保存していくことが大切か、話し合うことができる。	活動の観察	話し合いの3つ以上の観点から、何を保存していきたいかを考え意見を言っている。	話し合いの3つ以上の観点から、何を保存していきたいかを考え意見を言っている。	新しく知った「久世町のええところ」を書いていない。
3 早川踊りについて調べる。 ①調べていく手がかりを発表しあい考える。 ② 早川踊り保存会の人の話を聞いたり踊りを見せたりする。	関心・意欲 態度 ① 知識・理解 ②	早川踊りについて調べるための手がかりを進んで考えることができる。 早川踊りと保存会の人の話を聞き、保存会の人の思いに気付く。	発表 「これが早川踊りだ!」ワークシート	調べるための手がかりを調べ、少しでも内容を調べている。	調べるための手がかりを調べている。	調べるための手がかりを調べていない。
③ 早川踊りの由来などについて調べる。	関心・意欲 態度 ② 思考・判断 ②	保存会の人たちの活動の様子や願いを聞いて早川踊りの現状と課題を調べる。	「早川踊りの現状や課題について書いてある。」	早川踊りや保存会の活動でわかったことを書いていく。	早川踊りや保存会の活動でわかったことを書いていく。	早川踊りについて調べたが、書いていない。
4 運動会で早川踊りを踊り学	関心・意欲	早川踊りの練習に進	踊り練習カード	必ず毎日進んで練習をし	毎日ではないが進んで家庭	家庭での練習をしてい

<p>区の人に早川踊りを知らせる。</p> <p>① 発表の準備をする。 ・練習をする。 ・学区の人に伝える方法を考える。 ・表現方法の工夫をする。</p>	<p>態度 ②</p> <p>思考・判断 ①</p> <p>技能・表現 ①</p>	<p>一人で取り組むことができる。</p> <p>地域の人に早川踊りのことを知ってもらうためにはどうすればよいかを考えることができる。</p> <p>早川踊りを学区の人に伝えるために、表現を工夫することができる。</p> <p>地域の人に働きかけ、ともに楽しく早川踊りを踊ることができる。</p>	<p>「プロジェクトPR 早川踊りカード 大作戦」カード</p> <p>活動の観察 振り返りカード</p>	<p>ている。</p> <p>地域に広める方法を2つ以上書いていて、その中からより効果的な方法を理由づけて考えている。</p> <p>積極的にアイデアを出し、協力して作業を進めている。</p>	<p>でも練習をしている。</p> <p>地域に広める方法を1つは書いています。</p> <p>グループの一員として協力して作業を進めている。</p>	<p>ない。</p> <p>地域に広める方法をワークシートに書いていない。</p> <p>グループの一員として協力して作業していない。</p>
<p>② 運動会で発表をする。</p> <p>5 早川踊りに取り組んだことを振り返り活動をまとめる。「振り返りカード」にまとめる。</p>	<p>関心・意欲・態度 ①</p> <p>思考・判断 ①</p>	<p>これまでもの活動を通して自分方と久世町との関わり方を振り返り、さらによりよく関わっていくことができる。</p>	<p>振り返りカード</p> <p>振り返りカード</p>	<p>「活動評価表」で8個以上の項目に○をつけている。</p> <p>地域のよさを再認識している。あるいは自分の内面の記述、変化に関する記述はなままでの学習を踏まえて書いている。</p>	<p>「活動評価表」で6個以上の項目に○をつけている。</p> <p>地域のよさを再認識している。あるいは自分の内面の記述、変化に関する記述はなままでの学習を踏まえて書いている。</p>	<p>「活動評価表」に○をつけている項目が5個未満しかない。</p> <p>地域のよさを再認識している。あるいは自分の内面の記述、変化に関する記述はなままでの学習を踏まえて書いている。</p>

2 授業と評価の実践

2-1 指導と評価の一体化の実践

学習活動1 「私が見つけた久世町のええところ」を調べ発表する。

① 調べる。

(1) 指導・学習の過程

夏休みの課題として自分が住んでいる久世町のよさを見つける活動を設定した。よさを見つけるポイントとして「昔ながらのよさが残っているものを見つけよう。」と助言した。また、児童にはワークシートを準備し、調べる具体的な内容として以下のような例を挙げ、調べる方法を明確にしてから活動に取り組むことができるようにした。

・自然 ・場所 ・人 ・昔から伝わっていること ・特産物 ・その他

上のような活動の結果、次のようなテーマが児童の調べた中から出てきた。

・旧遷喬小学校 ・早川代官 ・代官なし ・ピオーネ ・桜並木
・お大師様 ・お滝様 ・宮芝グラウンド

(2) 評価結果

夏休み明けに提出されたワークシートを評価資料として評価した。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
関心・意欲・態度 ①	自分が見つけた「久世町のええところ」を、進んで調べることができる。	22人	30人	24人

(3) 指導の改善と支援

夏休みの課題ということであったが、約68%の児童が久世町のよさに目を向け、自分なりに工夫して調べていた。しかし、約32%の児童は夏休み前の興味・関心が持続せず、ワークシートにほとんど書き込んでいなかった。これは夏休み前の課題の提示の仕方が児童の興味・関心をもたせるには不十分であったことを反省した。

評価結果「1」の児童には、次の活動のとき友だちの調べた内容で興味のあるものについて、友だちと一緒に発表の準備をしたり発表したりするよう助言して、次の学

習活動に望んだ。

学習活動1 「私が見つけた久世町のええところ」を調べて発表する。
② 発表し、感想を書く。

(1) 指導・学習の過程

夏休みに調べてきたことを学年フロアで学年全体で発表することにした。友達の発表から自分が今まで知らなかった久世町のよさを発見する時間である。まず、発表の前に調べたテーマが似ている児童同士でグループを作り、どのように発表を進めるのかを話し合う時間を設けた。次に発表の時、調べる過程で撮ってきた写真や参考にした資料、イラストなど具体的に説明できるものがある児童には発表の時、わかりやすく実物投影機などを用いるように助言した。

(2) 評価結果

発表をしている実際の場面から評価を行った。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
関心・意欲・態度 ①	「久世町のええところ」を進んで発表しようとしている。	12人	42人	22人

(3) 指導の改善と支援

学年全体で発表を行ったため、発表の時間を十分確保できなかった。効果的な発表形態を検討すべきであったと反省した。また、夏休みの課題ができていない22人の児童に対して発表への参加を工夫する必要がある。発表会の後「夏休みに調べられなかったけれど、興味をもったテーマがあったので調べたい。」と言ってきた児童がいた。そこで、評価結果が「1」であった児童に発表会の中でどんなことに興味を喪ったのか尋ね、自分が調べてみたいテーマを選んでやってみようとして助言を与えた。

(4) 評価結果

発表後に児童が書いた「久世町のええところ」発表会用紙を評価資料として評価した。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1

知識・理解①	今まで知らなかった「久世町のええところ」に気づくことができる。	62人	12人	3人
--------	---------------------------------	-----	-----	----

(5) 指導の改善と支援

ワークシートに今まで知らなかった「久世町のええところ」をいくつ見つけることができたかを書く際の評価基準を事前に知らせておいたところ、多くの児童はより積極的に発表を聞き、新しく知った「久世町のええところ」を書くことができた。用紙に記入できなかった3人の児童については、個別に「今日の発表会で一番心に残ったものは何だったか」と発表を振り返り、気づかすように声かけをした。

学習活動2 久世町の「ええところ」の中から多くの人に知らせ、残していきたいものを決める。

(1) 指導・学習の過程

前時の「久世町のええところ発表会」を踏まえて、総合的な学習の時間で取り組んでいくテーマを学年全体で決定することにした。たくさんある久世町のええところの中から何を残していくことが大切かを話し合うポイントとして以下の3点を示した。

- ①久世町らしいもの
- ②昔からあるもの
- ③今では知っている人がだんだん少なくなっているもの

以上の3点を基に話し合いを進めていった。意見が学年全体から次第に出始めてきた時、4～5人の班での話し合いの形態に切り替えた。このことにより、まだ意見が十分まとまっていない児童が友達の意見を聞いたり、自分の考えを述べたりすることでテーマ決定にすべての児童が関わるようにした。

話し合い終了後、班ごとに「決まったテーマ」と「そのテーマは話し合いの3つのポイントのどれに当てはまるのか」を発表し、その結果、テーマは旧遷喬小学校・久世の自然・早川踊りに絞られた。その中から、話し合いのポイント①②③をすべて満たすテーマはどれかを話し合い、最終的に早川踊りにテーマが絞られた。

(2) 評価結果

発表をしている実際の場面から評価を行った。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評 価 結 果	

		3	2	1
思考・判断①	たくさんある「久世町のええとこ」の中から何を保存していくことが大切かを自分達なりに考え、話し合うことができる。	38人	39人	0人

(3) 指導の改善と支援

全員が評価結果「3」または「2」であることからわかるように、たくさんの「久世町のええとこ」の中から何を选ぼうかと一生懸命に話し合いをすることができた。

ただ、テーマ決定に向けての話し合いを進めるときに、自分達の興味・関心を優先させてしまい、話し合いのポイントを抑えせずに話し合いを進めている班がいくつかあった。「今話し合っていることはどのポイントに当てはまっているかな」と問いかけ、常に話し合いのポイントを意識できるように複数の教師が手分けして話し合いの輪に加わり、助言するようにした。

学習活動3 早川踊りについて調べる。
① 早川踊りを調べていく手がかりを発表しあい考える。

(1) 指導・学習の過程

「早川踊り」にテーマが決定したので、どのようにしたら自分たちが早川踊りのことを知ることができるのか、その方法を話し合うことにした。話し合いの中で以下のような意見が出てきた。

- ・ 早川町に行けば早川踊りのことがわかると思う。
- ・ インターネットで調べる。
- ・ 早川踊りの保存会があることを聞いたことがあるので、そこへ聞いてみる。
- ・ 早川踊りと関係の深い早川代官の銅像がある場所に行ってみる。
- ・ 公民館に行って聞いてみる。
- ・ 町内の図書館に行って調べる。

(2) 評価結果

児童が発表し合っている様子から、評価を行った。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1

		3	2	1
関心・意欲・態度	早川踊りを調べるための手がかりを進 ① んで考えることができる。	14人	63人	0人

(3) 指導の改善と支援

14人の児童の中には近所の知り合いや家族の中に早川踊りの踊り手がいたりなど早くから早川踊りについて話を聞いている児童もいた。このことから、地域の人と出会うことで新しい情報を得ることができるのではないかという気持ちをどの児童も高めることができたと思われる。

学習活動3 早川踊りについて調べる。

② 早川踊り保存会の人の話を聞いたり、踊りを見せてもらったりする。

(1) 指導・学習の過程

早川踊り保存会から2名を学校に招待し、早川踊りについて直接、児童に話をしてもらう場を設けた。事前に保存会の方に聞いてみたいことを準備しておいたので「いつから早川踊りを踊り始めたのですか。」「どうして早川踊りという名前がついたのですか。」「早川踊りのどんなところが好きですか。」「早川踊りはどんな踊りですか」など矢継ぎ早に児童から質問・疑問が飛び出した。それに対し、保存会の人は丁寧に一つひとつ答えてくれた。

また、児童の要望に答えて踊りを披露した後、児童と一緒に踊ろうと誘ってくれた。はじめは恥ずかしがっていた児童も次第に早川踊りの世界へとひきこまれていった。久世町の伝統である早川踊りというものを多くの人に知ってもらい、高齢化が進む保存会の現状から若い世代に受け継いでもらいたいという保存会の強い願いが子ども達に伝えられた時間であった。以下は活動後の子ども達の感想である。

- ・女踊りは少しむずかしかったけど、運動会でやってみたい。
- ・早川おどりのことをもっと知りたい。
- ・これから早川踊りをおどれるようになって保存会の人とおどりたい。
- ・今のおどりはとはちがって、昔から残されているおどりなので、とてもおもしろかったです。これから、総合の勉強で「早川おどり」のことを深く調べていきたいです。

(2) 評価結果

提出されたワークシートから、評価を行った。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
知識・理解②	早川踊りと保存会の活動を知り、保存会の人々の思いに気付く。	62人	15人	0人

(3) 指導の改善と支援

保存会の方の話を聞いて62人の児童は「早川踊りを自分たち4年生に伝えていてもらいたいんだな。」という保存会の強い思いを感じていたようである。その中から「運動会でおどって早川踊りを広めたい。」というある児童の感想を取り上げて全体に投げかけてみたところ、ほぼ全員の児童が「やってみたい!」と立ち上がった。このことにより、その後の踊りの調べ活動や運動会での踊りの発表や地域への踊りを広める活動意欲に生かすことができた。

学習活動3 早川踊りについて調べる。
③ 早川踊りの由来などについて調べる。

(1) 指導・学習の過程

学習活動3の①で話し合った早川踊り保存会、早川代官像のある所、公民館等へ行って調査する班と校内でインターネットを利用して調べる班の6班に分かれた。班は自分がやってみたい調べ方によって分かれることにした。早川踊り保存会や久世公民館に調べに行ったグループは詳しく聞き取り調査ができたが、早川代官像がある所には早川代官についての解説があったが早川踊りについては何の記述もなかった。また、インターネットではおそらく調べたいことが調べられないだろうと予想していたので、もし調べることができなかつたら、他のどこかのグループに合流するように助言した。

地域へ出かける班については、先方に事前に電話等で訪問のを打ち合わせをしておくように助言をして、学習の仕方をその班全員が学ぶことができるようにした。

(2) 評価結果

提出されたワークシートから、評価を行った。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		

		3	2	1
思考・判断②	保存会の人たちの活動の様子や願いを聞いて早川踊りの今の様子がわかる。	11人	63人	3人

(3) 指導の改善と支援

ほとんどの児童は学習活動3の①の話し合いをもとに、地元に出向くことによって、早川踊りの由来や今の様子などを調べることができた。インターネットで早川踊りを調べることを選択した3名の児童は検索の結果、手がかりを得ることができなかったため、ワークシートに何も書けずに終わっていた。地元の情報についてはインターネットでは調べにくいことがわかったようであるが、その時点で早く他のグループに合流するように適切に助言すべきであった。今回は検索の仕方について指導を行い、久世町のホームページを探し出すことができた。また、調べたい内容に応じた調べ方を考えていくことを助言した。

学習活動4 運動会で早川踊りを踊り、学区の人に早川踊りを知らせる。

- ① 発表の準備をする。
 - ・練習する。
 - ・学区の人に伝える方法を考える。
 - ・表現方法の工夫をする。

(1) 指導・学習の過程

学習活動3の②で運動会で早川踊りを踊ろうということが決まり、早速練習を開始した。

まずはじめに、男踊りと女踊りに分かれた。それまでに、早川踊り保存会の有元さん・柴田さんに踊りを見せてもらっていたので、子どもたちはその時から男踊りを踊りたいとか女踊りを踊りたいとか、すでに決めていたようである。教師が有元さん・柴田さんから習ったことを教えるとともに、二人の踊りをビデオに撮っていたの、繰り返し見ながら練習を行った。

一通り習った後、家で練習するようにした。練習の励みになるよう「早川踊り練習カード」を用意した。このカードをもとに早川踊りへの関心・意欲・態度を評価していった。

さて、自分たちが運動会で踊ることになったが、それだけで早川踊りが復活するだろうか。久世町の人たちに早川踊りのことをもっともっとPRする方法はないだろうかということ考えた。このとき一人一人の考えを『プロジェクトX早川踊りPR大作戦』ワークシートに書いて、地域の人に早川踊りのことを知ってもらうための方法をできるだけたくさん考え、さらにその中からよりよい方法を、理由づけて一つに絞

っていった。

子どもたちからは、次のような意見が出た。

- ・ 知っている人や家族に教えてあげる。
- ・ 全校の人に踊って見せて、教えてあげる。
- ・ ポスターを作ってはる。
- ・ ビラを作って、人通りの多いところで配る。
- ・ 看板を作ってたてる。
- ・ 校内放送で学校の人に知らせる。
- ・ KHKで放送してもらおう。
- ・ 全校集会の時に全校の人にってもらおう。
- ・ 学校だよりに書いてもらおう。

この中から、総合の時間で自分たちが取り組めるもの（他人の力に頼らない）・より多くの人に早川踊りを知ってもらえる方法という2観点から話し合うよう助言をした。そこで子どもたちがまとめたのがこの4つである。

- ・ ポスターを作ってはる。
- ・ ビラを作って、人通りの多いところで配る。
- ・ 看板を作ってたてる。
- ・ KHKで放送してもらおう。

次にこの4グループに分かれ活動を始めた。

① ポスターグループ

はじめに、どんな内容のポスターにするかを話し合った。早川踊りを広めるのが自分たちの願いなので、見た人が踊れるように、踊り方を描こうということになった。

② ビラグループ

運動会の案内と早川踊りの簡単な説明と一緒に踊りましょうというお誘いを書いたビラを印刷し、放課後自分たちで学校のまわりを中心に配った。直接人に会ってお願いをしたので、温かい言葉をかけてもらえとてもうれしかったようである。

③ 看板グループ

材料や道具など自分たちで分担して用意をした。慣れない鋸や金槌に悪戦苦闘していたが、友達同士で教えあって何とか作ることができた。できた看板は校長先生や看板を立てたい場所の担当の先生に立ててもよいか尋ねに行き、学校の入り口や昇降口などの人がたくさん通るところに立てた。

④ KHKグループ

KHKに電話で交渉をし「運動会に向けて早川踊りを練習していることを町のニュースで取り上げてほしい」とお願いをした。幸いにも引き受けてもらえたが、ただKHKに放送してもらっただけでは、自分たちの勉強にはならないのではないかと

問いかけた。そこで、子どもたちはひとことでも自分たちの口から「早川踊りを踊るので運動会に来てください」ということと「ぜひ一緒に踊ってください」ということをアピールしようということになった。

このようなPR大作戦をそれぞれ行い、踊りの練習も毎日のように行い当日を待つばかりになった。

そこで、運動会当日4年生の演技として早川踊りを披露する時、どのようにしたらみんなに注目してもらえるかを考え話し合った。その方法として「早川太鼓」のような感じで和太鼓の連打で入場する。早川踊りについて調べたことを簡単にまとめて説明する。ということに決まりそれぞれ希望をした子どもたちに任せ、練習に取りかかっていった。

(2) 評価結果

関心・意欲・態度②については、毎日提出する「早川踊り練習カード」をもとにし、思考・判断①については、PRの方法を考えるときに書いた「プロジェクトX早川踊りPR大作戦」カードをもとにし、技能・表現①については、PRのための活動をしているときの観察、および活動後に行った「振り返りカード」をもとに評価を行った。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
関心・意欲・態度②	早川踊りの練習に、進んで取り組むことができる。	23人	20人	34人
思考・判断①	早川踊りを広めるため、より効果的にPRする方法を考えることができる。	55人	17人	5人
技能・表現①	早川踊りをPRするための活動を、友達と協力し、工夫しながら行うことができる。	25人	46人	7人

(3) 指導の改善と実施

関心・意欲・態度②について評価結果「1」が34人と多かった。これはカードは渡していたが、宿題と同じように連絡黒板に書かなかつたため、多くの児童が学校では楽しんで練習していたけれど、家庭での練習までは意識が薄れてしまったためと思われる。評価結果「3」の23人については毎日カードを提出して継続して練習ができていた。

関心・意欲・態度②の評価結果「1」「2」の児童については家庭での練習が意欲的にできるように毎日カードを出している児童を賞揚したり、カードの確認をしてなくした児童には新しいカードを用意したりした。

また、学年便りを通して、総合で取り組んでいることを家庭に知らせ、家庭においても練習するようにしていることや、できるだけたくさんの人に広めるため、おうちの人にも教えるので、一緒に覚えて、運動会で踊ってくださいと呼びかけていった。

次に 思考・判断① の評価結果を見てみると、評価「3」が55人と多くなっている。これは早川踊り保存会の方たちから「この踊りをたくさんの人に知ってもらいたいから、みなさんの力を貸してくださいね。」と、直接頼まれていたからではないかと思われる。それだけ強く使命感をもっていたようである。また、1学期の総合学習『ワールドカップ in 遷喬』で自分たちの応援する国のPRをしたときに、看板を作ったりピラを書いたりした経験があったので、それが活かされたように思う。

技能・表現①についてはグループでの活動になり、材料の調達の相談・道具の使い方への協力など、友達と力を合わせる場面が多く、どのグループも意欲的に取り組んでいた。しかし、KHKグループの7人の児童については、人数が多い割に活動が考えにくく、友達に頼りすぎて自分たちの活動ができていなかった。KHKグループの評価「1」の児童たちには、なぜ活動ができなかったのかを教師と一緒に考え、次の活動では1人一役がんばろうと話した。

学習活動4 運動会で早川踊りを踊り、早川踊りについて学区の人に知らせる。
② 運動会で発表をする。

(1) 指導・学習の過程

できるだけたくさんの人たちに早川踊りを見たり踊ったりしてもらおうと、前日までPRを続けた。特に最後の日には、招待状を書き、一人以上は踊る人を見つけてこようとした。多くはお母さん・お父さん・おじいちゃん・おばあちゃんなど家族に書いていたが中には先生に書いている子もいた。きれいに色を塗って丁寧に仕上げて手渡した。

当日、お囃子のために早川踊り保存会の方々に来てもらった。お昼ご飯もそこそこに、食べた児童から着替えにかかった。短い昼休みにきがえを完了するのは忙しいことが予測されたので、予め保護者の方にお手伝いを頼んだ。また早川踊り保存会の方たちにも着替えや笠をかぶるのを手伝ってもらった。

いよいよ運動場に並び入場した。入場には早川太鼓を思わせるように和太鼓を3人の児童が連打した。次に、早川踊りの説明を2人の児童が自分たちで考えた原稿をもとにアナウンスした。

そして、会場いっぱいに三味線と太鼓の生の演奏が響き渡り、歌声に合わせて児童たちは踊り始めた。それまではカセットテープで練習していたので、いつもよりゆっ

くりなので踊りにくそうであったが、保存会の方たちの踊りを見ながら合わせて踊った。

2曲目はいよいよ会場の人に呼びかけた。前日までのPRの成果があり、呼びかけに応じてあちらこちらのテントから、保護者の方やPTAの役員の方、校長先生、高学年の児童らが次々踊りの輪に入ってきてくれた。子どもたちは見本を見せ、一緒に踊ることができた。踊り終えた子どもたちは、思っていたよりたくさんの人が踊ってくれたこととその人たちに教えることができたことに大変満足していた。

(2) 評価結果

運動会後にそれまでの活動を振り返り「活動評価表」を書き、それをもとに評価を行った。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
関心・意欲・態度 ①	地域の人に働きかけ、ともに楽しく早川踊りを踊ることができる。	29人	27人	17人

(3) 指導の改善と支援

評価結果「1」が17人と多いのは「運動会の日、お願いをしていた人が踊ってくれたか。」という項目があったためだった。子どもたちのお願いに対して、運動会で踊るのは恥ずかしいということで運動会当日3分の1から2分の1の保護者の方しか出てきてもらえなかったからだと思う。また質問の項目が曖昧だったのでどれぐらい客観的な評価ができたか不安な面がある。数字では評価結果が意外に低かったが実際の活動では運動会でたくさんの人に早川踊りを踊ってもらおうという明確な目標をもって意欲的に活動できていたと思う。

学習活動5 早川踊りに取り組んできたことを振り返り、活動をまとめる。

(1) 指導・学習の過程

運動会が終わり、まずお世話になった早川踊り保存会のかたたちに、お礼の手紙を書いた。ちょうど、理科でヘチマを育てているので、お礼にヘチマのたわしと化粧水をプレゼントしようということになった。

また、ワークシートをもとに、これまでの活動の振り返りを行った。

この振り返りでは、活動を通して出会った久世町の人たちとの出会いを思い出した。

早川踊りを復活させるため、いろいろな人に関わり、励まされ、応援してもらったことを改めて知ることができた。

そして、この学習でどのように自分が変わったかを見つめ直した。ただ早川踊りが踊れるようになったというのではなく、久世町固有の文化である早川踊りを守り続けている人たちの思いにふれ、久世町と自分との関わりを考えることができた。

(2) 評価結果

運動会が終わってまもなく、これまでの活動を振り返り、ワークシートを使って評価を行った。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
思考・判断①	自分たちのこれまでの活動を振り返り、自分と久世町、あるいはそこに住む人たちとの関わりを考えることができる。	31人	31人	10人

(3) 指導の改善と支援

評価「2」「3」の児童が合計62人で全体の約9割を占めていた。ワークシートには、活動中お世話になった久世町の人たちとの思い出がいろいろ書かれていた。また、はじめは久世町にこんな踊りがあるんだなあと思わなかった早川踊りのことを、調べていくうちにだんだんいい踊りだなと思えるようになってきたという感想が書かれていたり、次の学習課題が具体的に見つけられていたりして、この学習への満足感が感じられた。

2-2 自己学習力の向上に向けた評価の実践

評価の多くをワークシートという形で行った。その際、具体的に・・・について3個以上書けたら評価の3、2個なら評価の2、1個までしか書けなかった、あるいは書けなかったら評価の1、という基準を示すようにした。ワークシートの中に基準を書いておき自分で3・2・1の評価を書いたり、口頭で教師が基準を言ったのを聞いてワークシートに書いたりしていった。子どもたちには基準を示した方がはっきりとしためあてができたようで、ある質問に考えが1つ書けていても、もっと考えてみようとし1より2、2より3の評価を目指していく子もいた。

2-3 外部への説明責任に向けた評価の実践

(1) 単元の総括的評価結果

本単元を学習して学習効果について「関心・意欲・態度」については、学習活動3の①、学習活動4の①、学習活動4の②の総和で、「思考・判断」については、学習活動2、学習活動4の①、学習活動5の総和で、「技能・表現」については、学習活動4の①、「知識・理解」については、学習活動1の②、学習活動3の②の総和で観点別の学習効果の検討を行った。

①「関心・意欲・態度」について

観点(評価場面) \ 評価基準	3	2	1	合計
関心・意欲・態度① (学習活動3の①)	14人	63人	0人	77人
関心・意欲・態度② (学習活動4の①)	23人	20人	34人	77人
関心・意欲・態度① (学習活動4の②)	29人	27人	17人	73人
①+②+③	66人	110人	51人	226人

この結果から分かるように、学習活動3の①では「1」判定の児童は一人もいなかったが、学習活動4の①では44%の児童が「1」判定であった。このことは学習活動4の①の活動においては、学習効果が十分ではなかったといえる。

しかし、単元全体を考えるならば、「3」「2」判定の児童が約78%で、「久世町のええとこ」を見つけようと取り組む姿が見受けられ、まずまずの学習効果があったと考えられる。

②「思考・判断」について

観点(評価場面) \ 評価基準	3	2	1	合計
思考・判断① (学習活動2)	38人	39人	0人	77人
思考・判断① (学習活動4の①)	55人	17人	5人	77人

思考・判断① (学習活動5)	31人	31人	10人	72人
①+①+①	124人	87人	15人	226人

この結果から分かるように、①+①+①の「3」判定の児童は124人で、全体の約55%を占めており、「2」判定を含めると93%を超している。このことから学習効果が十分あったと判断できる。

③「技能・表現」について

評価基準 観点 (評価場面)	3	2	1	合計
技能・表現① (学習活動4の①)	23人	46人	7人	76人

「3」判定の児童は約30%で少し低い、「グループの一員として協力して作業を進めている」という「2」判定を合わせると90%であるので、学習効果は十分であったと考えられる。

④「知識・理解」について

評価基準 観点 (評価場面)	3	2	1	合計
知識・理解① (学習活動1の②)	62人	12人	3人	77人
知識・理解② (学習活動3の②)	62人	15人	0人	77人
①+②	126人	27人	3人	154人

この結果からわかるように、①では「1」判定の児童は3人で、②では「1」判定の児童は一人もおらず、「3」判定の児童は①・②ともに半数以上の62人であった。このことから、十分学習効果があったと判断できる。

(2) 単元における個人内評価結果

< A児について >

学習活動	1 ①	1 ②	2	3 ①	3 ②	3 ③	4 ①	4 ②	5	評定
関心・意欲・態度	1	1		2			3	3		B
思考・判断			3			2	3		3	A
技能・表現							3			A
知識・理解		3			3					A

注： 評定は、総括的評価結果に基づき、Aは80%以上、Bは60%以上、Cは59%以下であることを示している。

① 縦断的評価結果

学習活動の後半にあたる学習活動4の①～5を通じて、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」3観点ともに3であり、均等で高い発達的特質が認められる。このため、評定においても評価結果が非常に良くなっている。これは、早川踊りを地域へ広めるために自分は何をしなければならないのかという明確なめあてをもつことができたためと思われる。ほぼA児のような傾向を示す児童が学年全体で13人いた。

② 横断的評価結果

「関心・意欲・態度」では、「1—1—2—3—3」というように、学習過程の前半は1であったが、次第に2—3—3と伸びて安定し、評定はBであった。最初はあまり関心が高くなかったが、活動を重ねるごとに評価結果がよくなっている。このことは、久世町のよいところの中から、多くの人に知らせ残していきたいものを話し合いを経て、早川踊りに決定したことにより学習の見通しをもつことができたためと思われる。A児のような伸びを示す児童が学年全体で6名いた。